

経営のご相談は
お近くのBSD
(ビジネス
サポートデスク)
まで!



きつ しゅ いく せい
喫酒幾星

京都市東山区弁財天町15 スペース新橋3F東
TEL:075-551-1610

創業から事業拡大まで

成長段階に寄り添う

商工会議所の伴走支援

創業計画は1人で悩まない

代表の織田浩彰さんと京都商
工会議所の出会いは2014年。
きっかけは、香りも楽しめるハーブ
リキュール専門バー「喫酒幾星」の
創業時の融資のタイミンがだった。
当時、創業計画書の作成を支援し
たのが大竹経営支援員(以下、大
竹)。書くべきポイントを教えても
らえたので、計画書作成の過程で
自分が不足していた部分に気づく
ことができたという。

「創業者にとって、自分の想いを
具体的な形に落とし込むのは大
変な作業。商工会議所は、事業内
容が漠然としている段階でも一緒
に考えてくれるため、まずは相談
してみるものがおすすめ」と織田
さんは語る。

創業後も切れ目なく続く
サポート

2014年4月に無事オープ
ンを迎えた後も、大竹から提案された
補助金を活用して、店舗の設備を
整えてきた。「自己資金も少ない創
業当初に、補助金を設備投資に活
用できたのは大きな助けになった」
と織田さんは振り返る。転機は
2020年、コロナ禍による酒類提
供の自粛だ。新たな事業展開とし
て、ハーブやスパイスから香りのエッセ
ンスを抽出したノンアルコールスピ
リッツの開発を計画。蒸留設備の導
入を検討していたところ、当時の担
当経営支援員のアドバイスを受けて
「事業再構築補助金」を活用し、ノン
アルコールバー「幾星 京都蒸溜室」
のオープンへとつながった。

商工会議所全体で
経営者を支える安心感

大竹の異動後も、経営のさまざ
まな相談を通じて、後任の経営支
援員ともつながりを大事にしてきた
織田さん。ずっと同じ方に担当いた
だく良さもあるが、顔見知りの職員
が増えることは、味方が増えたよう
な安心感があるという。喫酒幾星
は、本年1月に新たに法人を立ち上
げ、さらなる成長を目指している。
今でもたまに顔を出す大竹は「次の
ステージに進まれても、成長段階に
応じた支援メニューをご案内し、商
工会議所全体で引き続き応援して
いきたい」と語った。



大竹経営支援員

代表
織田 浩彰さん

詳細はWebから
ご確認
いただけます



祇園のビルの3階に潜む「喫酒幾星」。世界の草木花の香りを、
酒に溶かし込んだ「飲む香水」ハーブリキュールが楽しめる。▶